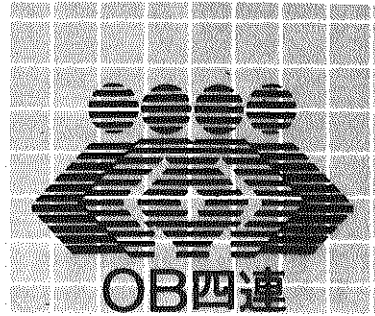


活動日程 ★=臨時練習

- 6月23日(火) 定期練習
 - ★27日(土)~28日(日) 「稲グリ・四連強化合宿」
河口湖・合唱ロッジ「コニシ」
 - 28日(日) OB四連「在阪メンバー合同練習」
 - 30日(火) 定期練習
 - 7月4日(土) 「大学OG女声合唱団合同演奏会」
(慶応、聖心、日本女、立教、
共立、学習院)サントリーホール
 - 7日(火) 定期練習
 - ★9日(木) 臨時練習 奉仕園 19:00~21:30
 - ★11日(土) " 大阪熱海後楽園ホテル
 - 12日(日) 「第6回東西OB四連演奏会」
ザ・シンフォニーホール
-
- 21日~8月4日(毎火) 定期練習 東 混
 - 8月11日・18日(火) 夏休み
 - 25日(火) 11月1日「ボニーとのジョイコン」
に向けて定期練習開始

(注) 7/11の練習 16:00~20:00
7/12 " 9:00~ 朝日放送スタジオ
「打上げ」新阪急ホテル4,000円、同伴者3,000円

いよいよ開幕だ!!



第六回 東西OB四連

六月二十日(土)サントリーホールでの「現役四連」。会場のそここに、過ぎし日の「自分たちの時」の四連テタジに思いを馳せ、様々の感慨の中、熱い期待を込めてステージを見つめる各校のOBたち。この「昂ぶり」を、間もなく大阪のザ・シンフォニーホールで「OB四連」としてステージにぶつける。

それぞれわずか二十分程のステージに各OB団の情熱をかける。いよいよ開幕、一発勝負。悔いの

稲グリ新聞

〈発行〉 早大グリーンクラブOB会 稲門グリーンクラブ
 〈編集〉 富永 侃 二 部
 類原 信 二 豊
 佐々木 豊
 160新宿区百人町3-8-11
 類原方 ☎03(360)3336
 (毎月1回発行)

合同ステージは四連の華

現役の合同ステージオンステ数ををるかに上回る三百人の大合同

ない演奏でステージを盛り上げ、「打上げ」の美酒に心ゆくまで酔いしれよう。

内輪ばなし

稲門グリーンクラブ会長 福井忠雄(二九)

セカンドの福井といえば、ソリストではないが、音量・音の確かさ柔らかなでパートのキートと自負していたし、古い人は認めてくれていた筈である。ところが近年の衰えは甚だしく、練習では最前列に陣を取り、後ろから聞こえてくる声を頼りにしながら、中岡、津田、平井諸兄と励まし合っている昨今である。

カラオケなら数曲歌っても十分程度だし、適度の音域に調整されているから破綻をきたさないが、練習は二時間もやるし、音域はあつたからあまり下におりてこないから、瞬間的には出る音も出ないから、普段は使える筈の音も難かしくなってくる。そうなるると前後の音程も怪しくなるというところと情けないことおびただしい。トップはすごいナアとか思いながらバリトンが羨ましく、近頃は移籍を真剣に検討しているが、そうしたら今迄のレパートリーは全部、オシヤカになつてしまふし、第一、セカンドの仲間が淋しがるだろうと思うと中々決断するわけにいかない。

気を抜いて歌っていると、音の芯を常に握りまめままで妥協し、癖感には完全に薄れてしまつて、だからすぐセカンドは低いと叱らないか。

ステージは四連の「目玉」の一つでもあり、お客も期待している。福永陽一郎先生を盛り立て、素晴らしいステージにしたいもの。

それでは諸兄、体調だけは崩さぬよう、七月十二日の「本番」に向けて仕上げにかかりましょう!

練習状況

OB四連直前の出席状況は左表のとおり。五十人台も珍らしくなくなつたが、昨年の定演直前の六十人突破を思うと、人数動員面でももうひと頑張りしたいところ。特に臨時練習により一層の出席が望まれる。

最近のニューフェイスは、T1荒川勝男さん(五七)。昨春、共立女子大合唱団同期の靖子夫人と結婚後すぐ、このたび帰国。多忙な身赴任し、このたびは皆勤。銀行勤めの傍ら稲グリにも皆勤。元気で留守がちな理想的亭主といふわけ。現役時部長。先日熱海特ステで音取り係として鮮烈デビュー。

また、この春大阪から転入したT1真下武夫さん(三六)も五月期より定着している。

《出席状況》★=臨時練習

	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	
	5/12	19	24	26	30	6/2	7	9	13	16	21
T ₁	13	18	10	13	9	16	13	11	11	15	11
T ₂	11	10	4	5	6	9	10	8	5	13	5
B ₁	13	9	6	7	10	14	15	7	6	12	8
B ₂	13	16	7	16	8	13	14	14	7	15	13
	50	53	27	41	33	52	52	40	29	55	37

【ハミダシ情報】久喜市市議選に立候補した田中喧二さん(四四卒・四月号)【ハミダシ情報】の威力とご同慶の至り。

「ハミダシ情報」六月十二日の郷ひろみ・二谷友里恵ご両人の結婚披露宴にワグネル現役が出演して「お嫁サンバ」を歌った。友里恵さんが慶応出身だから仕方あんぬい。

《東京地区OB四連合同練習》

「歌うこと」を楽しもう！

四曲ほぼ出乗上がる「秋のピエロ」は本番でのお楽しみ

六月二十一日(日)、第六回OB四連合同ステージのための東京地区練習が新宿大久保の「学生の家」で行われた。

各団の出席は左表の通りで若干低調ではあったが、今回担当幹事団の東京クローバークラブ・木下幹事長の挨拶、指揮の森本さんの下練習等手際良く進められ、少し遅れて福永陽一郎先生の登場となった。

初見に近い曲もあり、初めはなかなか先生の棒について行かない所もあったが、合同曲五曲のうち「秋のピエロ」を除く四曲が短時間のうちにみるみる仕上がって行く。

福永先生いわく、「現役は、かわいそうなことに、大きなステージが続くため、半強制的に歌わせられるので、歌う喜びが感じられないことが多い。そこへいくとOBは、歌いたくて集まって来ているから棒が振り易い。飲む気で来ている馬に水を飲ませるのだから、指揮者は交通整理係で取り敢えず用が足りる。」

「各団・練習出席数」

- 東京クローバー 一三名
- 新月会 九名
- ワグネルOB 一三名
- 稲 ぐ り 三七名

(合計)七二名

歌声は宴会で最高潮!!

「来年も！」の声に、岡さん(二九)「オロツ」(編集子S記)



福井会長「演奏のことは忘れて、カンパ——イ！」 熱海後楽園ホテル大宴会場で

初夏の抜けるような青空が広がる六月七日(日)、本年度のビッグイベントのひとつ「熱海道遠祭」が催された。稲ぐりは普段の練習出席人数を上回る五十名の大所帯で熱海の地に駆けつけ、得意の「はずの」愛唱歌の数々を披露し、祭典の盛り上げに役を買った。

「合宿情報」合宿所をお間違えなく!

本年度のビッグイベント「OB四連」まであと僅か、恒例により強化合宿を行います。

■日時 六月二十七日(土) 二十八日(日)

■場所 河口湖 「ロツジ・コニシ」 山梨県南都留郡河口湖町 木立白木四三九一

■費用 ①全参加 一〇〇〇〇円 ②夜より(夕食なし) 七〇〇〇円 ③朝より(朝食なし) 三〇〇〇円

村役人 児玉康夫(三八)

■携帯品 楽譜、着替え、洗面具 持病の薬等

当ロツジはこの夏完成を目指して増築中のところ、九九%の確率で新館を使用できる見込みです。ホールは指揮者のところに音が集まるように作られ、風呂も大きくて良いとのこと。パート練習には絶好か?乞ご期待。

送迎バスのこと

高速バス利用の方のために、河口湖駅まで送迎バスを依頼します。新宿発十三時三十分と十五時三十分のバスを予定していますので、



下車後、駅前のバス乗り場付近でお待ち下さい。なお、これ以外のバスで来られる方も、一応到着後ロツジへ電話してみして下さい。可能な限り迎えに行つて貰うようにします。

自前でタクシーに乗られる方は「ロツジ・コニシ」と告げて下さい。(類似名の民宿有り)「おおば」に行かれた方は四連には連れて行きません。

では、諸兄再見於河口湖!

メンバーは歌唱力はもちろん、熱海の皆様の前に出しても恥ずかしくないルックス、それに今回は湯治も兼ねているので多少なりとも持病のある者を厳選して得意芸であつた。各国からの祝電披露もやつた。熱海市や早大の関係者をも含め、原春夫早大総長も、ご自身の講演終了後も舞台上手前前列に腰掛け、長唄、落語、そして我が稲ぐりの合唱と続くプログラムを最後まで堪能された。稲ぐりの演奏後は締めくくりとして、早大関係者やOBが全員ステージに上がり、稲ぐりと共に校歌を高らかに歌い上げて幕となった。

終演後は今回の特ステージの仕掛人岡さん(二九)のはからいにより、熱海道遠祭ホテルで温泉に浸かり、新鮮な料理と酒で大宴会をやるという豪華な夢が実現した。

「演奏よりこつちの方が狙いの人も多い。宴会は予想通り愛唱歌とカラオケで盛り上がり、会長・幹事を握る中、またまた岩淵さんが「どの会社にもいる音痴の上役が歌うカラオケ」なる新作(リズム・音程等を巧みにはずした「王将」)を歌つてメンバーの腹の皮をよじれさせた。

終演後は、リッチな一泊を楽しむメンバーを残し、一同バス、マイカー等で帰途に就いた。行きと打って変わつての大渋滞にうんざりする中、新宿到着時刻を予想してトトカルチョで競うなど某会長ほか元気のメンバもいた。

ちなみに優勝は長岡さん(三八)。

とこの「来年も是非よろしく」とのメンバの声に岡さんが口ごもつておられたのは、果たして今日の日の感激のためか、それとも「?」いざれにせよ、また熱海の素晴らしい空気に浸りたいものから二万円を熱海市に寄付したことを記して、この稿を終わると。

ボニージャックスの受賞式で

渡邊 紫郎賞(一六)



左から渡辺(16)、鹿島(33)、鹿島夫人、湯山昭、阪田寛夫の諸氏

去る五月十九日(火)にボニージャックスへの「モービル児童文化賞」の贈呈式がありました。この賞のことは、稲グリ新聞の前号で紹介しましたが贈呈式には音楽界・児童文学界の著名人が三百人以上も集まりました。式のとボニーの記念演奏があり、そのなかで彼らの受賞を記念して贈られた藤田圭雄作詩・磯部俣作曲の「ペガサスの歌」が披露されました。当日のパンフには早大グリークラブ出身と紹介されていましたので式の後のレセプションでは、小生も鼻が高く大きな顔をして飲み回った次第です。磯部さんも大変喜んでいました。会場では早大の校友も多く見受

「風花」の熱演に圧倒された

《桜友女声合唱団「第五回演奏会」を聴いて

五月三十一日・こまばエミナース

T・小俣泰英(三八)

初めて演奏を聴いた。「中々やるなー、大したものだ！」と感じた。特に、「風花」は感動した。演奏そのものが素晴らしかったのは言うまでもないが、よくもこんな難かしい曲に挑戦し、しかも立派にやり遂げられたものと感心した。

う！これに合唱がどのように乗るのだろうか！合唱が出てくるとホッとした。しかしこれは伴奏なんでものではない。コーラスの美しい響きをヴィオラ、チェロが壊しかかると今度は作曲者に感心した。これでは歌う方はますます難かしくなる。次に合唱だけの部分がしばらく続く、女声のアカペラは難かしいだろう。よっぽど低音部がしつかりしないと合唱にならないと思うがどうか？いやーよく声が出ている。それでも低音部が

「磯部俣音楽生活四十年を祝う会」

七月二十六日(日)・赤坂プリンスホテルで開催決まる

磯部俣さんは七月二十四日に満七十歳、いわゆる「古希」を迎えられるが、ボニージャックスを中心に磯部さんを取りまく多くの人達により、「磯部俣音楽生活四十年」と銘うつて、きたる七月二十六日(日)八時四十分～十六時、赤坂プリンスホテルで、賑やかに行われることになった。磯部さんは昭和二十二年から十五年間現役を指導し、稲グリにも直接指導を受け同じ釜の飯を食ったメンバーも数多い。磯部さんの音楽の原点は何と言っても早稲田

という真面目な返事がかえってきました。賞金の額が発表されたので付け加えておきます。なんと百五十万円でした。

手持ちの資料を

貸して下さい

稲グリ部史編纂委員長

内田裕和(二七)

基本になる年表が八十%出来ました。五年前、十年前、二十年と思い出しながら作業してきますと、心が若返ってきます。定演の会員券、料金、忘年会費、それぞれ移り変わり面白く感じました。あと残りの二十%は、現在までに作ったものに精密度を加えることで、その点で皆さんの協力をお願いします。

今欲しい資料は、第十五回定演(日々谷公会堂)以前のステーション写真、練習、合宿風景の写真と、第十回までの現役送別演奏会プログラムです。預り証発行の上お返しします。是非探し出して貸して下さい。

また、OB四連終了後、「座談会」を行いたいと思います。三回に分けてやりますので、その節は指名された方はご出席ください。五十七年卒の宮本君が手伝ってくれることになりました。親子みたいですが、もう一人、三十年代卒の方が欲しいのですが……よろしく！

もっと欲しいな。ソプラノはスパーツと抜けるように声が出ていて中々良いではないか。よほど発声の練習をしているのだろう。(我が稲グリももっと発声練習をやるべきだなー。)今度は楽器が入ってきた時うまく音が合うだろうか、と余計な心配が始まる。しかし、私の心配はき憂だった。見事に着地して演奏は終わった。聴くものに深い感銘を与えて……きつと一〇〇%うまくいったのだろう。歌い終えてホッとした、そして晴れ晴れとしたメンバーの表情からもそれが伝わってきた。この曲は聴く側も肩の凝る曲である。そして歌う側も聴く側も同時にホッとする感じで、そういう所も好感が持てた理由なのかもしれない。

いにまとめたという感じでこちらには安心して聴いていられた。磯部さんの流れるような指揮を見て二十数年前の現役時代が思い出されて自分がステージに立っているような気分になった。打上げにも出席させていたのだが、和気あいあいと実に楽しい雰囲気であった。特に私と同期の桜友メンバーが次々と名乗りを上げて来られて、この時ばかりは私も美女に囲まれて急に「モテモテおじさん」になった。若い時にこんなにもてていたら私の人生も変わっていたかも……と残念に思っていた。なんと同期の方が八名も活躍しているとのこと、羨ましい限り。稲グリの同期(三八年)よ、もっとと大勢出てきて一緒に歌おうてはないか！

「ハミダシ情報」一方ワセグリは、カルビーの新ジャガポテトのTVCMに出演中。第九に合わせて歌うがなぜか女声が混じる。昔イモ、今ポテトって言うのは誰だ！



